



あかるく元気な子 だれにも親切な子 しっかり考える子 ことばを大切にする子



2017 年はどんな 1 年だったかな？

○旧暦の月の呼び方を借りると、12 月は「師走（しわす）」と言います。「師匠の坊さんも、この時期は仏事が忙しくて各地を走り回っている。」という説が有力です。お坊さんだけでなく、普段は落ち着いている教師も慌ただしく走り回るとい説もあるようです。その他に、「年が果てる」意味の「年果つ」が変化したとする説や、「一年の最後になし終える」意味の「為果つ（しはつ）」からとする説などもあるようです。



12 月の慌ただしい日々の中ではありますが、旧暦の月の呼び方とその意味を覚えながらゆっくりとこの 1 年を振り返り、次の成長への新たな節目としてほしいと思います。



1 月＝睦月（むつき） 仲睦まじい月。正月に家でなごやかな宴を催し、むつみあうことからつきました。「生月（うむつき）」が転じたという説もあります。

2 月＝如月（きさらぎ） 寒さで衣を更に重ねて着ることから、「衣更着（きさらぎ）」とする説が有力とされています。「如月」の漢字は中国での二月の異称を流用しただけで、日本語の意味とは無関係だそうです。

3 月＝弥生（やよい） 暖かな陽気にすべての草木がいよいよ茂るという意味の「弥生（いやおい）」がつまって「弥生（やよい）」になったとされています。

4 月＝卯月（うづき） 卯の花が咲く季節なので、「卯の花月」の略とする説が有力です。卯月の「う」は「初」「産」を意味する「う」で、一年の循環の最初を意味したとする説もあります。



5 月＝皐月（さつき） 早苗を植える「早苗月（さなえづき）」が略されて「さつき」となり、後に「皐月」の字があてられました。「皐」という字には水田という意味があります。



6 月＝水無月（みなづき） 水無月の「無」は、「の」にあたる連体助詞「な」で、「水の月」という意味だそうです。陰歴六月は田に水を引く月であることから、水無月と言われるようになったそうです。

7 月＝文月（ふみづき・ふづき） 短冊に歌や字を書く七夕の行事から「文披月（ふみひろげづき）」、稲穂が膨らむ月ということで「ふくみ月」、これらが転じて「文月」になったと言われています。

8 月＝葉月（はづき） 葉の落ちる月「葉落月（はおちづき）」が転じて「葉月」。現代では葉が生い茂る様子を思い浮かべますが、旧暦では 7 月から秋となるため、秋真っ盛りだったのです。

9 月＝長月（ながつき） 秋の夜長を意味する「夜長月（よながづき）」の略で「長月」になりました。また、秋の長雨による「長雨月（ながめづき）」、稲穂が実る「穂長月（ほながづき）」の略だという説もあります。



10 月＝神無月（かんなづき） 神を祭る月であることから「神の月」とする説が有力とされています。また、10 月に全国の神々が出雲大社に集まり、諸国に神がいなくなることから「神無月」になったとする説もあります。

11 月＝霜月（しもつき） 文字通り霜が降る月という意の「霜降月（しもふりつき）」の略で「霜月」となったそうです。

※これ以外にも、それぞれの月には諸説があるようです。

○季節を感じる月の呼び名とともに、その月の出来事を思い出しましたか。ところで、毎年 12 月に発表される「今年の漢字」。一昨年は「安」、昨年は「金」でした。さて、今年は何んな漢字で表されるのでしょうか。みなさんなら、自分の 1 年にどんな漢字をあてはめますか？